

トピックス

1号機が発電を再開，2号機は第10回定期検査を開始しました。

1号機は昨年2月から第18回定期検査を実施していましたが，地震に対する安全性を高める耐震裕度向上工事を終了し，3月18日に原子炉を起動，23日に発電を再開し，4月9日に100%出力での調整運転に入りました。

2号機は3月26日から約7ヶ月間の予定で，第10回定期検査を開始しました。3号機については，昨年11月から実施している第5回定期検査にあわせて，耐震裕度向上工事を進めています。

【発電所の運転状況（3月末現在）】

号機	運転状況	主な動き
1号機	調整運転中	3月23日に発電を再開しました
2号機	定期検査中	3月26日より第10回定期検査を開始しました
3号機	定期検査中	第5回定期検査中です

また，1号機調整運転中（出力約10万5千キロワット）の3月23日，原子炉内に89本ある制御棒のうち1本が，制御棒操作をしていないにもかかわらず，全引抜きの状態から一番上まで挿入（全挿入）されるトラブルが発生し，電気出力が約5千キロワット低下しました。地域の皆さまにご心配をおかけしたことについて，心よりおわび申し上げます。

発生原因を調査した結果，本来，原子炉停止中に行う制御棒駆動水配管の空気抜き作業を原子炉運転中に実施したため，制御棒を挿入する方向に水圧がかかり，全挿入したことがわかりました。

当社は，このトラブルの発生原因と再発防止対策をとりまとめ，4月3日，国および関係自治体に報告しました。当社としては，この再発防止対策を確実に実行し，発電所の安全・安定運転に全力で取り組んでまいります。

トピックス

女川原子力発電所2，3号機の耐震安全性評価の中間報告を国に提出しました

当社では，2，3号機における原子炉建屋や安全上重要な機能を有する主要な設備の耐震解析・評価を実施し，まだ解析・評価が終了していない2号機の主要な配管を除いて，耐震安全性が確保されていることを確認しましたので，3月31日に中間報告として国に提出しました。（2号機の主要な配管については，評価が終了した時点で国に報告します。）

今後は，より一層の信頼性向上のため，最終報告に向けた作業を確実に進めてまいります。また，耐震裕度向上が望ましいと判断された箇所について引き続き耐震裕度向上工事を実施してまいります。

トピックス

消防庁消防大学校の鶴田特殊災害研究室長による講演会を開催しました。

2月25日に，発電所構内の防災意識向上を目的として，消防庁消防大学校の鶴田俊特殊災害研究室長を講師に「大規模火災の教訓」というテーマで講演会を開催しました。

鶴田先生からは，過去の事故・災害事例の解説をいただくとともに，「万が一の火災が発生した場合に備え，どのような被害が発生するのかをあらかじめ想定しておくことや，消火方法を消防機関とよく確認しておくことが大切」などの貴重なお話をいただきました。



▲発電所職員・構内協力企業社員約70名が聴講しました

ふれあい

女川町立女川第一小学校より壁新聞の寄贈を受けました。

2月26日女川原子力PRセンターにて、女川町立女川第一小学校の6年生の皆さんより、自作の壁新聞の寄贈を受けました。

この壁新聞は、6年生の皆さんが、「原子力発電」「火力発電」「水力発電」「その他の発電」の各発電方法について自主学習の内容をまとめたものです。

当日は学習内容の発表のほか、PRセンター内の見学や、東北放射線科学センターによる放射線基礎講座を行い、原子力や放射線に関する知識をさらに深めていただきました。

寄贈された壁新聞は、現在PRセンター1階に掲示しています。



▲自主学習の成果を発表していただきました

ふれあい

石巻市河北総合センター「ビッグバン」にて「ミニバスケットボールクリニック」を開催しました。

3月22日石巻市河北総合センター「ビッグバン」にて、女川原子力PRセンター主催「ミニバスケットボールクリニック」を開催しました。

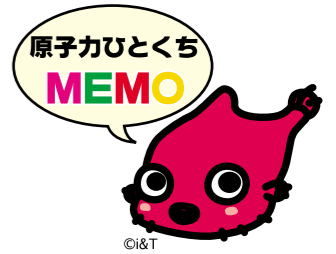
当日は、「bjリーグ2008-2009シーズンクリニックキャラバン」のコーチングスタッフ3名が、地域のミニバスケットボールチームに所属する小学生130名にバスケットボール技術の指導を行いました。



▲参加した子どもたちはコーチの指導を受け、熱心に練習していました

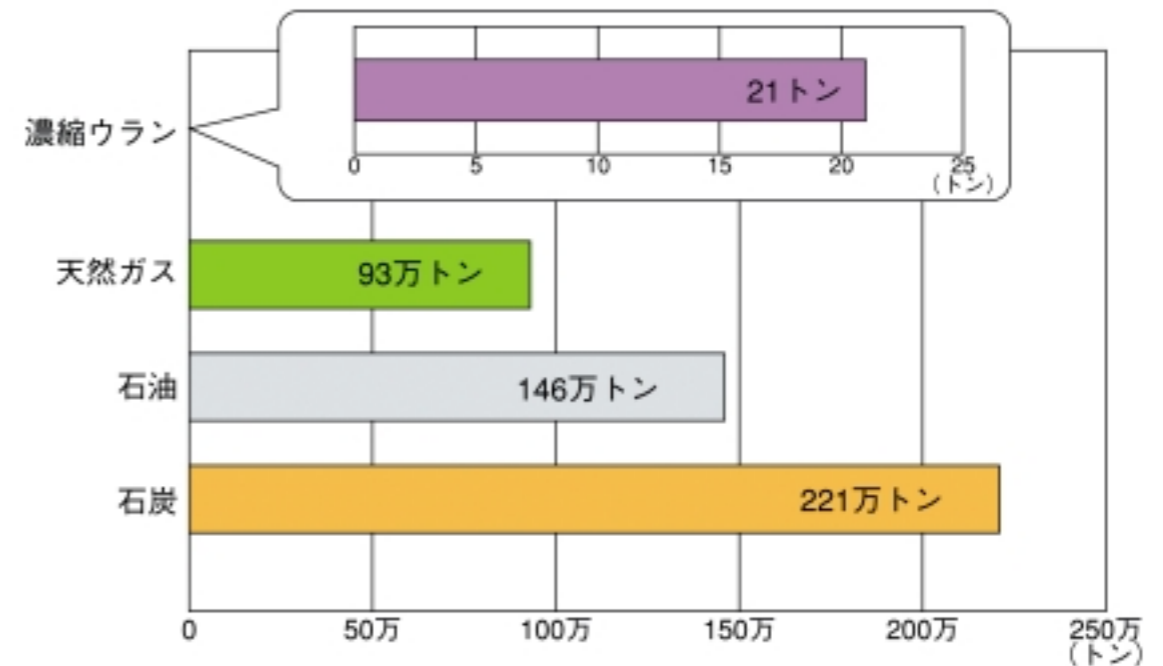
ウランは輸送と備蓄がしやすい

ウランは少しの量で大量に発電できます。このため、燃料の輸送や貯蔵のしやすさも特長の一つです。原子力発電所では、ウラン燃料を1回取り替えると、1年以上発電できます。また、発電所に加えて、国内の燃料加工工場にもあるウランを使えば、万が一ウランの輸入がストップしても約2.4年[※]運転できます。



※「原子力の燃料供給安定性の定量的評価」電力中央研究所 2008年4月

100万kWの発電所を1年間運転するために必要な燃料



出典：電気事業連合会「原子力・エネルギー図面集2009」